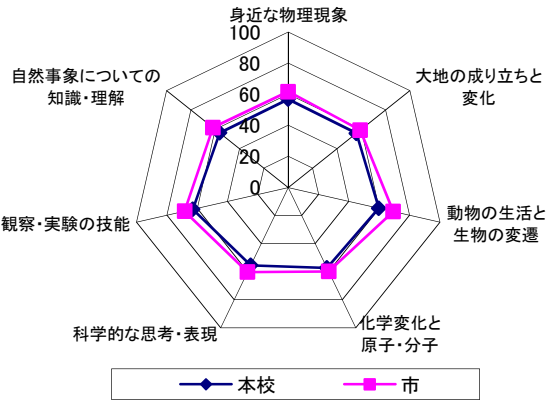


宇都宮市立陽南中学校 第2学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度	
		本校	市
領域別	身近な物理現象	56.8	61.6
	大地の成り立ちと変化	56.0	59.1
	動物の生活と生物の変遷	59.7	69.2
	化学変化と原子・分子	57.3	59.8
観点別	科学的な思考・表現	55.4	60.3
	観察・実験の技能	62.9	68.3
	自然事象についての知識・理解	56.3	61.8



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
身近な物理現象	本校の正答率は、市の平均を4.8ポイント下回っている。科学的に思考する問題が差が大きく、中でも圧力を求める計算に課題が見られる。	今後も実験を通して、科学的な現象を実際に体験することを重視することに加え、計算をともしなう問題を繰り返し練習することで、定着を図りたい。
大地の成り立ちと変化	本校の正答率は、市の平均を3.1ポイント下回っている。知識・理解を問う問題では平均を上回っているが、それを活用して思考する問題で市の平均を大きく下回った。特に、鉱物の判別や名称に関する理解に課題が見られた。	予想・考察など文章で自分の考えを表現する機会をさらに設定し、筋道立てて思考する力の向上を図っていく。
動物の生活と生物の変遷	本校の正答率は、市の平均を9.5ポイント下回っている。特に記述式の問題で、市の平均を大きく下回っている。細胞についての理解に課題が見られた。	授業で学習する内容が、日常の生活でも実感できるように留意する。文章で自分の考えを表現する機会をさらに設定し、苦手意識を克服していきたい。
化学変化と原子・分子	本校の正答率は、市の平均を2.5ポイント下回っている。実験の対応を問う問題では、市の平均を大きく上回ったものがあった。一方、化学反応式、化学式についての理解に課題が見られた。	目には見えない原子・分子を、視覚的なイメージをもって理解することが大切である。原子記号や化学式について、豆テストを繰り返すことで定着を図る。実験も多くあるため、実験の手順や注意事項などについても、きめ細かく指導していく。